

高橋仁美 著

《理学療法 NAVI》この 30 題で呼吸理学療法に強くなる

上月正博（東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻機能医科学講座内部障害学）

長年にわたり呼吸リハビリテーションのエキスパートとしてご活躍の高橋仁美先生（市立秋田総合病院リハビリテーション科・技師長）が『この 30 題で呼吸理学療法に強くなる』を出版された。

本書は、臨床に出たばかりの新人や数年目の若手理学療法士を対象に企画された《理学療法 NAVI》シリーズの新刊である。

本書は「呼吸の基礎知識」「呼吸アセスメント」「呼吸ケア」の 3 章、各章 10 項目、総計 30 項目の内容で、項目のすべてを Q & A 形式として、それぞれ前半は筆者の分身ともいえる「エキスパート PT」（筆者の高橋先生）と入職数年目の「ビギナー PT」との会話でのやりとり、後半は解説というスタイルになっている。「スパイロメータから換気障害を判定し、呼吸障害の程度を予測しよう！」「酸素ボンベの使用可能時間を算出しよう！」「酸素吸入下での血液ガスデータ、どう解釈する？」「COPD の急性増悪、酸素療法で改善が今ひとつ、どうする？」など、「ビギナー PT」のみならず、研修医や看護師にも役に立つ内容になっている。

呼吸リハビリテーションをはじめとする内部障害リハビリテーションの対象患者は激増しており、「ビギナー PT」には必須の基本領域になっている。しかし、全国的にみてそれをきちんと伝えられる「エキスパート PT」の数はいまだ十分とはいえず、

養成校時代や勤務先で十分な教育を受けられずに、不得意分野になっている PT も少なくない。

本書は、カリスマ PT でありながらいつも優しく親しみやすい高橋先生から、じかに読者が授業を受けているような、臨場感にあふれ、わかりやすく、しかもおもしろい、とてもぜいたくな読み物になっている。これなら「ビギナー PT」でもすんなりと呼吸理学療法に取り組む気になれそうである。また、少しあやふやなレベルだった知識が、“腹の底から納得できた、理解できた”という感覚を得ることができるものと思う。その感覚は、患者・家族への指導や養成校の学生への指導にも役に立つはずである。これまで、「〇〇理論」「〇〇の法則」などと難しく（しかも怪しい）講義の多かった昔に比べて、いまの「ビギナー PT」はなんと恵まれているのだろうかと痛感する次第である。

このように、本書は呼吸リハビリテーションに関して臨床現場ですぐに役立つ本であり、また、過去に呼吸理学療法を学んだ方の知識のブラッシュアップにも参考になる本である。ぜひ多くの方に読んでいただき、楽しく、おもしろく、スマートにビギナーからエキスパートへ脱皮されることを期待したい。

（A5判 頁252 2017年 定価3,000円+税[ISBN978-4-260-03261-2] 医学書院刊）